

砂と暮らし 砂に学ぶ

ITP
だより

28

乾燥地における農業について勉強するため、シリアという国に來ています。日本を出る前は、ただ漠然と危険な国を想像し、不安でした。

しかし、実際のシリアの人々は日本人にとっても親切です。道を聞けばわざわざ案内してくれ、バスに乗ると、席が空いていることを教えてくれます。

スーク (日本でいう市場)

シリアの人々



シリアのスーク(市場)は洞窟のようになっていて、道の両側に物を売る店が並ぶ。同じような道が何本も入り組んでいるため、まるで迷路のよう

スークの店員からシリアの伝統的布製品について説明を受ける(右が筆者)



へ行った時のことです。1人でぶらぶらと歩いていると、10歳くらいの少年2人組が私の手を引っぱってきます。何も分からず付いていくと、どうやら、この入り組んだ迷路のようなスークを案内してくれているようです。

途中、歩いているだけで、「シリアをよろしく」とヒマワリの種をくれたり、「お茶でも飲んでいけ」と声をかけてくれたりする人がいます。

なぜシリアの人々が日本人に親切にしてくれるのか尋ねたところ、昔はシリアとほとんど変わらない豊かさだったにもかかわらず、短期間の間に急成長を遂げた日本を尊敬している人が多いのだそうです。シリアの人々の優しさを感ずるたびに、このプログラムに身が入ります。

(鳥取大学大学院工学研究科学生・糸賀文映)

(水曜日に掲載)